

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	環境対策特別委員会		会議場所 第3委員会室
			担当職員 藤村
日 時	平成23年11月1日(火曜日)	開 議	午後 1 時 30 分
		閉 議	午後 2 時 51 分
出席委員	◎明田 ○苗村 中村 菱田 湊 日高		
理事者出席者			
傍聴者	市民 一名	報道関係者 一名	議員 名

会 議 の 概 要

- 1 委員長あいさつ
- 2 日程説明 省略
- 3 議 題
CO2 削減について～ゴミ減量化の観点から～

<明田委員長>

これまで、CO2 削減について、ごみ減量化の観点からということで検討してきたが、難しい問題だと思う。ごみ減量化と言っても幅広いので当委員会として何を取り上げていき、提言等にまとめるのか、あるいは委員の知識としていくのか意見を聞きたい。常任委員会でもこの件については熱心に取り組まれており、決算特別委員会でも提言されており、当局からの回答ももらった。そういうことも含めて意見を。

<事務局>

附帯決議及びそれに伴う環境厚生常任委員会が出された担当課の対応方針を報告いただき、そこで言及されていないところを特別委員会で深めていただいてはどうか。

<苗村副委員長>

ごみ減量・資源化等推進事業経費に係る附帯決議は、①分別基準の分かりやすい広報②プラスチック系ごみを分別した場合の再利用の研究③事業者との連携による発生抑制の推進の3点だったが、ある程度ペットボトル、プラスチック系ごみについては進みつつある。CO2 削減については、プラスチック系ごみが一番影響が大きい、生ごみについてを中心に進めていってはどうか。委員会の共通認識にしたいと思うが意見はどうか。

<明田委員長>

環境厚生常任委員会で大きく取り上げられなかったのが生ごみ。個人、家庭から出される生ごみが減れば桜塚工場の延命にも繋がる。市民、団体を巻き込んで取り組むことができればと思う。プラスチック系ごみは提言もなされ、市も取り組むと言っているが生ごみについてはあまり話が出なかった。委員の意見はどうか。

<中村委員>

生ごみについては家庭から出る分をいかに減らすかだと思うが、今、市内の一部で生ごみを堆肥化して土に返す運動がある。そういった取組みを特別委員会でも積極的にするとか、生ごみ処理機の普及を積極的に推進するとかぐらいしか思い浮かばない。生ごみを減らすことについて市は市民に何か PR しているのか。常任委員会ではそんな話はなかったか。

<明田委員長>

コンポストの助成ぐらい。生ごみは自然に返るので、市民とどう取り組んでいくかになるのではないかと思う。

<苗村副委員長>

— 前回の資料に基づき、処理機、処理容器の普及状況説明 —

常任委員会では、「ごみの分け方・出し方」で不明確な部分があるので分かりやすくしてほしいという意見があり、生ごみもその中に含まれる。常任委員会ではプラスチック系ごみに話が集中していた。

<明田委員長>

H14 か 15 のごみ袋の有料化の時に作ったままのパンフで、今回作り直すというような話はあった。

<湊委員>

C02 削減というが、何のためにするのか、どれだけ出ているのか分からない。生ごみについては堆肥化して土に返すと言っても畑がある等の環境の整ったところでないと利用できない。実際に分けることが可能なのか。なぜ燃やしたらいけないのかという根本的な話が必要。

<明田委員長>

数字は出ている。

<菱田委員>

C02 削減もごみ減量化も大事。しかし、話を聞いていると常任委員会と特別委員会が混同されているように思う。前回の話を聞いてもごみ減量化については常任委員会で深くされるべき。C02 削減については、ごみにこだわらず、本市は 65 % が森林であるから森林を保全して C02 を削減し社会貢献して市を全国的にアピールするほうがいいのではないか。常任委員会でしっかりやってもらって特別委員会は常任委員会でできない部分をするということになると思うがどうか。

<苗村副委員長>

話がもどる。そのことは最初に話した。ごみ減量化の観点で取り組もうという流れできている。

<菱田委員>

流れではきているがこのままでは結論が出せない。

<苗村副委員長>

それを出そうと問題提起している。

<菱田委員>

副委員長の腹案を教えてほしい。

<苗村副委員長>

生ごみの部分をどうするかということがどこでも煮詰まっていない。他の自治体の取組みの視察や取り組んでいる自治体の関係者の話を聞く等して取り組んでいけないか。

<菱田委員>

それは常任委員会でできることで、特別委員会ですべきことかという点が引っか

かっている。前回は理事者から説明を受けたが常任委員会と同じ説明。ごみについて常任委員会では限界があってできないというなら別だが、常任委員会できると思う。ごみについては収束し、次の課題を見つけて取り組むべきと思う。

<明田委員長>

私自身もどう取り組むべきか悩んでいる。生ごみについては常任委員会も壁にぶつかっている。

<湊委員>

取り組んできた経過はあるが、ごみについては常任委員会とダブってきた。CO2も大きすぎて分からない。春からやってきたがテーマを変えるのもいい。仕切りなおしてもいい。

<明田委員長>

私も当初、森林保全含めて乱開発を言ってきたが、行政の壁があり、断念した経過もある。今から方向修正はどうかと思う。CO2削減の中の生ごみについてということで考えてはどうか。

<日高委員>

理事者の説明も聞いたが、少しも前に進んでいない。常任委員会でやっていることをまたやっている。常任委員会で視察にも行っている。生活スタイル全体を変えていかなければならないが、市はこれ以上できないといっている。私も方向転換したほうがいいと思う。

<明田委員長>

これ以上進まないだけに特別委員会で何とかするよう言っていけないか。

<苗村副委員長>

出発点から試行錯誤している。そもそもの原点の話をしておいたほうがよかった。確かに進んでいない側面もあるが、徐々にではあるがごみ減量化も図れてきている。特別委員会として問題提起することも大切。常任委員会では具体的な話まで行かない。ここまで進めてきたのだから、絞っていけば。軌道修正すれば、一からの話になる。

<菱田委員>

総論としては副委員長の話はよく分かるが、掘り下げていく具体案はあるか。抽象論だけでは時間が経つばかりだ。

<明田委員長>

生ごみのことで勉強することは多い。市民に理解されるか、行政が取り組むか、難しい問題はあるが取り組んでいけばできることはあるのではないか。

<湊委員>

ごみが減っている原因は何か。人口が減っているからか。不燃ごみは無料の回収所ができたことが大きいのでは。

<苗村副委員長>

景気の動向、人口減等いろいろあると思うが、いろんな施策をやってきた結果であると思う。これだとは言いきれない。さらに削減していくためにどうするのかという話になる。

<中村委員>

学校給食とかは市のごみになっているのか。事業所ごみか。

<明田委員長>

民間事業所は桜塚工場だと思う。

<中村委員>

- 川東の土づくりセンターは家畜糞尿だけか。そこへ生ごみは持っていけないのか。
- <菱田委員>
- 設置目的が家畜糞尿になっているので取り組み次第ではできるが今の状態ではできない。今取り組んでいる方向が軌道に乗ったら考えていけるかもしれないが、今は早い。あわてて言ってしまうと反発を買うこともあるので、少し待ってほしい。
- <湊委員>
- 常任委員会の視察では何でも燃やしているところがあったと思うが。四日市だったか。
- <苗村副委員長>
- やっているところは多い。
- <中村委員>
- 京都市でも熱が高いので何でも燃やしている。
- <湊委員>
- 亀岡市でも何でも燃やしたらいいのでは。
- <中村委員>
- 亀岡市はそれだけの施設になっていない。
- <日高委員>
- 町田市がゼロウエストで取り組んでいると聞くがそれはどうか。
- <苗村副委員長>
- 町田市は市民レベルの取り組み。市長が言い出して始めた。1年間に何百回と会議をやってごみゼロを目指すという目標を定めている。いろんな分科会に分かれて取り組んでいる。先進事例を学ぶのも一つ。視察に行くだけでなく。きてもらって話を聞くのもいい。
- <明田委員長>
- それはごみの問題を引き続いてやっていく場合の話で、もし方向転換するなら、一から考えていかなければならない。
- 何か、提案は。
- <湊委員>
- ゼロにはならないと思うが。
- <日高委員>
- 燃やすところをなくすのか。
- <苗村副委員長>
- それは上勝町がやっている。
- <日高委員>
- 上勝町は小さいところだからやれているところもある。
- <湊委員>
- 町田を参考に提言すればいいのでは。どうやって減らしているのか。会議だけでは減らない。
- <苗村副委員長>
- 分別するとかいろんなことをやっている。
- <中村委員>
- 生ごみはどうしているのか。
- <苗村副委員長>
- 生ごみの堆肥化を市民レベルで取り組み、農家との提携をモデル的にやったりしている。まだ全市的にはやられていない。拠点に大きな生ごみ処理機を置いてやる

とか。

<菱田委員>

町田市は一部の関心のある人が始めた。団地のごみをどうにかしたいということではまずは自分のところのごみをどうにかしようと知り合いの農家のところへ持って行かれた。それをモデルケースとして団地の中に広げて取り組んでいる。20年近くかかっている。そういう人を探してどうバックアップするかの方が早い。漠然と議論していても進まない。

<中村委員>

2ヶ月ほど前、市民ホールでダンボールコンポストを作る会があって、10人ほど集まった。それらをどう後押しするかということなら可能性はある。

<日高委員>

私も参加し、ハエが入るまではやった。しかし、あれは実用化できない。臭気もするし置くところがない。寒い間はいいが暖かくなったら発酵する。

<明田委員長>

湿度等に気をつけるといい堆肥になるようだが、家庭での管理が難しい。

<日高委員>

町田市は実験的に実施して、何十年かをかけてやろうとしているのか。

<菱田委員>

いずれは全市に広げたいと思っているが、とりあえずはコアな主婦がおられる団地から広げていこうとしている。

<苗村副委員長>

最初はそうであったかも知れないが、市民会議という市の組織とし具体的な目標を定めてやっている。

<日高委員>

今は情報化が進んでおり、行政に言ってもすでに担当課は知っていることが多い。

<苗村副委員長>

本当に取り入れようとしているのか疑問。

<明田委員長>

菱田委員からは森林保全の關係に方向転換してはという声も出ているがどうか。

<菱田委員>

それは例えばの話で、ごみの削減については頭打ちなので方向を変えてはどうかということ。CO2削減についても打ち切ってはどうかと思っている。

<苗村副委員長>

頭打ちと言うが具体的に委員会としての話ができていない。具体的な話をするために何が問題なのかを考えてそこでぶつかったのなら仕方ないがそこまで行っていない。

<明田委員長>

具体的な話を出してほしい。他市の例とかを検討してみる。

<湊委員>

委員それぞれが勉強して意見を言えるようにしておかなければ委員会としての発展がない。

<苗村委員長>

勉強するにしても何についてかを決めておかなければならない。

<湊委員>

CO2、ごみ含めてそれぞれの委員が調べてきて出し合うように。

<明田委員長>

環境厚生常任委員会でも理事者に単発的に言っているが、ここまで継続的には取り組めていない。常任委員会と重なる部分はあるが、今の行政の壁を破ろうと思えば特別委員会で突破していかないと行政も動かないのではないかな。

このままだとあと1〜2回ぐらいしか委員会も開けない。

<湊委員>

提言は1年で出そうとしているのか。出せたら出すというぐらいか。

<明田委員長>

1年で出せばいいと思っているが、メンバーが変わっても特別委員会で引き継いでいけばいいとも思う。次回以降で生ごみについて意見を出し合い、それでも進まないようなら次のことを考えてはどうか。

<湊委員>

生ごみについてと決めるなら決めて、勉強し、もし提言にいらなくても議論をすることが大事だと思っている。今までの年に1回の活動であったことを思えば力になっている。

<明田委員長>

それでは、生ごみについてということでもいいか。

<菱田委員>

このことはこれで終了し、次の議題に移り、メンバーが変わっても引き継いでいくというのはどうか。これまで5回ほどごみのことに取り組んだが深まらず、常任委員会でも深まらない。次のステージに移ってはどうか。任期はどうであったか。

<事務局>

特別委員会が設置されてる限り最長4年が任期だが、途中で変わられることもある。

<明田委員長>

何らかのまとめはしておかないといけないと思う。

<湊委員>

もう1回だけ、次回に協議し結論をだすことでどうか。

<日高委員>

最初に4項目検討し進めてきた。もっとそれぞれの委員が深めてきてまとめをしておきたい。

<明田委員長>

それでは、次回最終的に一旦目処をつけるか、引き続きやっていくかを決めていくことでどうか。

<中村委員>

今回は、家庭ごみについてということか。

<苗村副委員長>

CO2削減について取り組み、ごみ減量化の観点から深めていこうとなった。常任委員会と重なる部分も確かに多いことはわかったが、常任委員会ではごみ減量化については、プラスチックの問題、事業者との連携の問題、市民への広報の問題がでた。特別委員会では生ごみの減量化が進んでないことからそこを深めていけばと意見をいった。行政に提案をするにはどうすればいいかを考えていきたい。特別委員会として行政に言っていかなければならない。具体的にできるかどうかは先の問題として考えていかなければいけない。

<明田委員長>

特別委員会として提言した以上は、出来るように努めてもらわなければならない。
＜事務局＞

C02 削減についてごみ減量化の観点から取り組むことでスタートしたが、その最中に常任委員会でも協議され、決算特別委員会の附帯決議も出された。附帯決議にかかる部分については主管課も予算に向けて方針を考えているのでこれ以上は深めていけないということで、本日は、特別委員会としてそこで論じられていない生ごみについて深めていくことの提案がなされ、合意を図ろうとされた。次回は、その合意の下で具体的な議論をされるのか、方向転換をされるのかを議論されるのか。

＜明田委員長＞

後者。生ごみで決めたわけではない。一旦終止符を打つのか、引き続きやっていくのかを次回で決める。次回で結論を出す。

次回の日程はどうか。

＜事務局＞

11月の終わりにもう一度ということでないなら、来年の1月開催になる。

＜明田委員長＞

それでは、次回は1月に開催する。

＜湊委員＞

特別委員会は委員長報告をしていたか。

＜事務局＞

その期が終わるときに委員長報告をされていた。

＜湊委員＞

提言がまとまれば3月議会で報告することになるのか。

＜事務局＞

提言は特別委員長名で文書提出、又は直接面会し手渡すという形になるかと思う。

＜湊委員＞

最終の報告時に提言をした内容等を含めて報告することになるのか。

＜苗村副委員長＞

次回について、もう一度確認を。

＜明田委員長＞

生ごみについて具体的なことを提案した上で、進めていくのか、他の事に移っていくのかを決めていく。各委員それぞれに理解を深めておいてほしい。

散会 ～14:51